

スマートインフラマネジメントシステムの構築

～効率的なインフラマネジメントが進んだ
持続可能で魅力ある社会の実現を目指して～

SIP 第3期 2023～2027年度（5箇年）

■サブ課題と研究開発責任者

「スマートインフラマネジメントシステムの構築」では、以下に示す5つのサブ課題の研究開発に取り組みます。サブ課題A～Eの研究開発責任者が、イノベーションを起こし、目指す姿の実現に向けて、社会実装を目指します。

2024年4月時点

サブ課題名	研究開発責任者	共同研究開発機関※1	研究開発実施者数※2
サブ課題A:革新的な建設生産プロセスの構築 (建設現場の機械の自律化・自動化により、建設現場の生産性・安全性を飛躍的に向上する。)	・東京大学 永谷圭司 特任教授	23機関	183名
サブ課題B:先進的なインフラメンテナンスサイクルの構築 (デジタルデータを活用してインフラの状態を精緻に把握し、予防保全型維持管理を実現する。)	・東京大学 石田哲也 教授	46機関	234名
サブ課題C:地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用 (全国レベルの共通基盤で人材のリカレントとリスクリングを促し、労働力不足の解消と労働力の質的向上を実現する。)	・金沢工業大学 宮里心一 教授 ・東海国立大学機構 岐阜大学 沢田和秀 教授	21機関	104名
サブ課題D:サイバー・フィジカル空間を融合するインフラデータベースの共通基盤の構築と活用 (デジタルツイン群のためのインフラデータベースの共通基盤を構築し、インフラ分野外も含め、国が抱える社会課題の解決、新たな社会Society5.0が目指す「未来のまち」の創造等の社会全体の最適化が可能となることを目指す。)	・東京大学 本田利器 教授 ・(株)アパリアテクノロジーズ 前田紘弥氏 ・日本電気(株) 久村孝寛氏	24機関	170名
サブ課題E:スマートインフラによる魅力的な国土・都市・地域づくり (国土・都市・地域レベルでのマネジメントにより、インフラの新たな価値を創出する。)	e-1:魅力的な国土・都市・地域づくりを評価するグリーンインフラ省庁連携基盤	・筑波大学 村上暁信 教授	11機関 91名
	e-2:EBPMIによる地域インフラ群マネジメント構築に関する技術	・東北大学 楠葉貞治 特任教授 ・大阪大学 貝戸清之 教授	12機関 95名
計	10名	計137機関	計877名

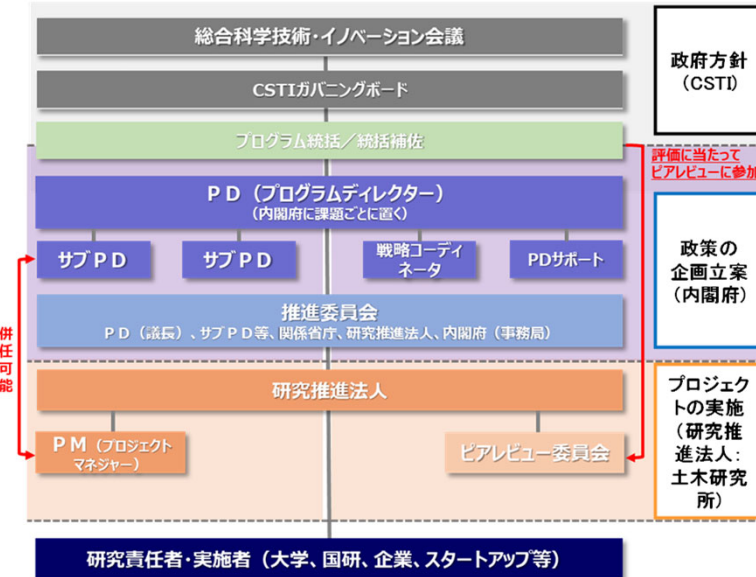
※1 責任者機関含む。 ※2 研究開発実施者数は、研究開発実施計画書(別紙)様式A-1より集約。ただし、複数のサブ課題や研究題目に登録している研究者がいる場合は、延べ人数として計上。

■SIPのマネジメント体制

ガバナンスボード、PD、研究推進法人が持つ機能を効率的かつ効果的に活用し、技術開発のみならず、多角的な視点から社会変革に向けた取り組みを推進するため、以下の3レイヤーによるマネジメント体制を構築しています。

各プロジェクトの実施に際しては、研究推進法人とPMが、研究開発責任者で進める各研究開発テーマ(サブ課題)のマネジメントをします。以下に、「スマートインフラマネジメントシステムの構築」のPD、研究推進法人(土木研究所)およびPMの体制を示します。今後、PDを中心に、他のSIP課題や関係省庁・産業界の取組み等とも連携し、研究開発テーマ(サブ課題)を推進し、そのミッション達成により、我が国が目指す社会像(Society5.0)のイメージを実現していきます。

■SIPのマネジメント体制



■サブPDの体制

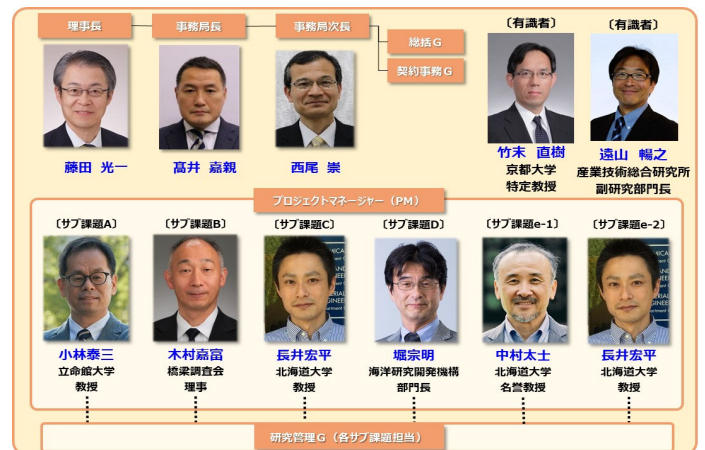
Sub-PD members and their roles:

- 秋山 充良 (早稲田大学 教授)
- 岩波 光保 (東京工業大学 教授)
- 木村 嘉富 (橋梁調査会 理事)
- 秋葉 正一 (日本大学教授)
- 土橋 浩 (首都高速C副理事長)
- 藤野 陽三 (城西大学 学長)
- 山田 菊子 (株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース 取締役COO)

Roles: 総括及び知財戦略・標準化戦略、総括及び社会実装戦略、総括及び課題間連携、社会実装戦略及び舗装・地盤、社会実装戦略及びデータ連携.

■PD補佐の体制

■研究推進法人(土木研究所)およびPMの体制



※SIPの取り組みに関する詳しい情報：<https://www.pwri.go.jp/jpn/research/sip/index.html> (または下記↓QRコード)

